

お申し込みについて

定員になり次第、申込受付を終了します。お早めにお申し込みください。

1 **パソコン(各種検索サイト)から直接で**

セミナーID(半角数字) で検索

もしくは、<https://school.jma.or.jp/>

※貴社の情報セキュリティ方針等でwebからの申し込みが難しい方は
JMAマネジメントスクールまでお電話にてお問い合わせください。
TEL : 03(3434)6271

2 **スマートフォン
タブレットから**

参加料 (消費税込)

一般社団法人日本能率協会法人会員	114,400円/1名
上記会員外	126,500円/1名

- ※参加料にはテキスト(資料)費が含まれています。
- ※昼食の提供はございません。(各自でご用意ください。)
- ※法人会員ご入会の有無につきましては、下記HPにてご確認ください。
<https://www.jma.or.jp/membership/>
- ※参加申込規定はJMAマネジメントスクールのWebページ(<https://school.jma.or.jp/>)に掲載しておりますのでご確認ください。

参加定員 14名(7社) ※参加人数が最少催行人数に達しない場合は、延期もしくは中止にさせていただきます。

ご注意

- 参加申込規定はお申し込みページにございますので、ご確認・同意の上、お申し込みください。
- 同業他社からのご参加はお断りする場合があります。
- 参加者数が最少催行人数に達しない場合は、延期もしくは中止にさせていただきます場合がございます。

プログラム内容に関するお問い合わせ先(プログラム内容、講師派遣、会員入会等)

一般社団法人日本能率協会 関西事務所
〒530-0001 大阪市北区梅田1-8-17 大阪第一生命ビルディング6階
TEL : 06(4797)2050(代表) E-mail : jma-kansai@jma.or.jp
URL : <https://www.jma.or.jp/kansai>

申込に関するお問い合わせ先(参加証・請求書・キャンセル・変更などに関する内容)

JMAマネジメントスクール TEL : 03(3434)6271
電話受付時間 月～金曜日9:00～17:00 ただし祝日を除く
E-Mail : seminar@jma.or.jp FAX : 03(3434)5505

会場開催の会場案内

会場地図は、参加証送付時にご案内いたします。
日本能率協会 関西事務所 研修室
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-8-17 大阪第一生命ビルディング6階

オンライン受講の方法

- Zoomを使用して配信します。初めてZoomを利用される場合は事前にサイトにアクセスいただきご準備ください。インストールは無料です。
- お申込みの方には、受講用URLと参加要領を後日ご連絡させていただきます。テキストは事前に送付します。
- すべての参加者がカメラやマイクを使いながら参加いただけます。
- 1申込につき1名様でご受講ください。(著作権の観点から1申込で複数の方のご受講はお受けいたしません)

キャンセル・参加日程変更の規定

キャンセルのご連絡日	キャンセル料	日程変更手数料 *2026年4月1日～2027年3月31日 期間の開催一回限り変更受付
開催15日前～開催8日前 (開催当日を含まず)	参加料の10%	無料
開催7日前～前々日 (開催当日を含まず)	参加料の30%	通い: 5,500円(税込)
開催日 前日	参加料の全額	通い: 7,700円(税込)
開催日 当日	参加料の全額	*日程変更は受付しておりません。 参加料の全額を申し受けます。

※日程変更手数料は、消費税を含みます。

無断でご欠席された場合も参加料の100%を申し受けます。
参加日程の変更については、1回に限り可能といたします(但し、2026年4月1日～2027年3月31日会期に限る)。
開催7日前より、日程変更手数料が発生いたしますのでご注意ください。
なお、開催当日の日程変更は受付しておりません。
※一部のセミナーにおいて上記規定と異なる場合がございますので、ご確認のうえお手続きをお取りいただけますようお願い申し上げます。

会員制度のご案内

小会は法人を対象とした会員制度を設けセミナー参加料割引をはじめ各種サービスを提供しております。詳しくは関西事務所までお問い合わせください。

オンライン: 3時間 + 大阪会場開催: 1日

作業IoTタブレットで実践して学ぶ 製造工程の作業デジタル 見える化改善ワークショップ

会期

第1回	1日目	2026年 6月 4日(木)	オンライン
	2日目	6月19日(金)	大阪会場
第2回	1日目	2026年10月14日(水)	オンライン
	2日目	10月27日(火)	大阪会場

開催形式

オンライン開催(Zoom) : 3時間 + 会場開催 : 1日
※自職場で実践するための「作業IoTタブレット」は期間中に1社1台貸出します。
本プログラムにおいて具体的な工程条件や特性などの入力はございません。

対象

- 生産管理部門・製造部門の管理者、中堅スタッフ
- 作業IoTタブレットを使っでの改善を実体験したい方

講師

松井 順一氏 コンサルソーシング(株) 代表取締役



日本の経営革新
×
学びと成長

日本能率協会(JMA)は、企業経営の要である「ひと」の力を最大にすることを通じ、新たな経営・組織づくりに貢献します。
社長・役員向けプログラムのほか、次世代経営者・幹部育成のための長期プログラム、役職別の能力開発研修、人事・教育、マーケティング、営業、開発、設計、技術、生産、購買・調達など専門領域のスキルアップ研修など年間2,000本以上の公開型研修を開催しています。また、企業・自治体・学校向け、個別課題解決支援を行っています。

JMAが選ばれ続ける4つの理由

- 1 現場課題に合わせたプログラム内容
- 2 実践力のつく演習・ディスカッション
- 3 研修結果を継続させる仕組み
- 4 多様な業界、業種と交流

ワークショップのねらい

生産管理や製造の実行管理の悩みの原因は、計画や管理の基となる作業時間や作業量などのデータの信頼性が低いことにあります。

例えば・・・

- 人や設備をうまく稼働できずムダやロスが多い
- 工程間のバランスが崩れ、工程が常に混乱する
- 計画と実際の差異から手待ち・過負荷が発生する

製造工程では、個々の違いやバラツキ、イレギュラーのあるデータが飛び交っているうえに、人探しやもの探し、調整、スイッチングロスなどの工程を混乱させる予定外作業も多く潜んでいます。さらに計画と実際の管理も少なくありません。

生産管理能力・製造実行管理能力を高めるためには、計画や管理の基となるデータの信頼性を高めなければなりません。

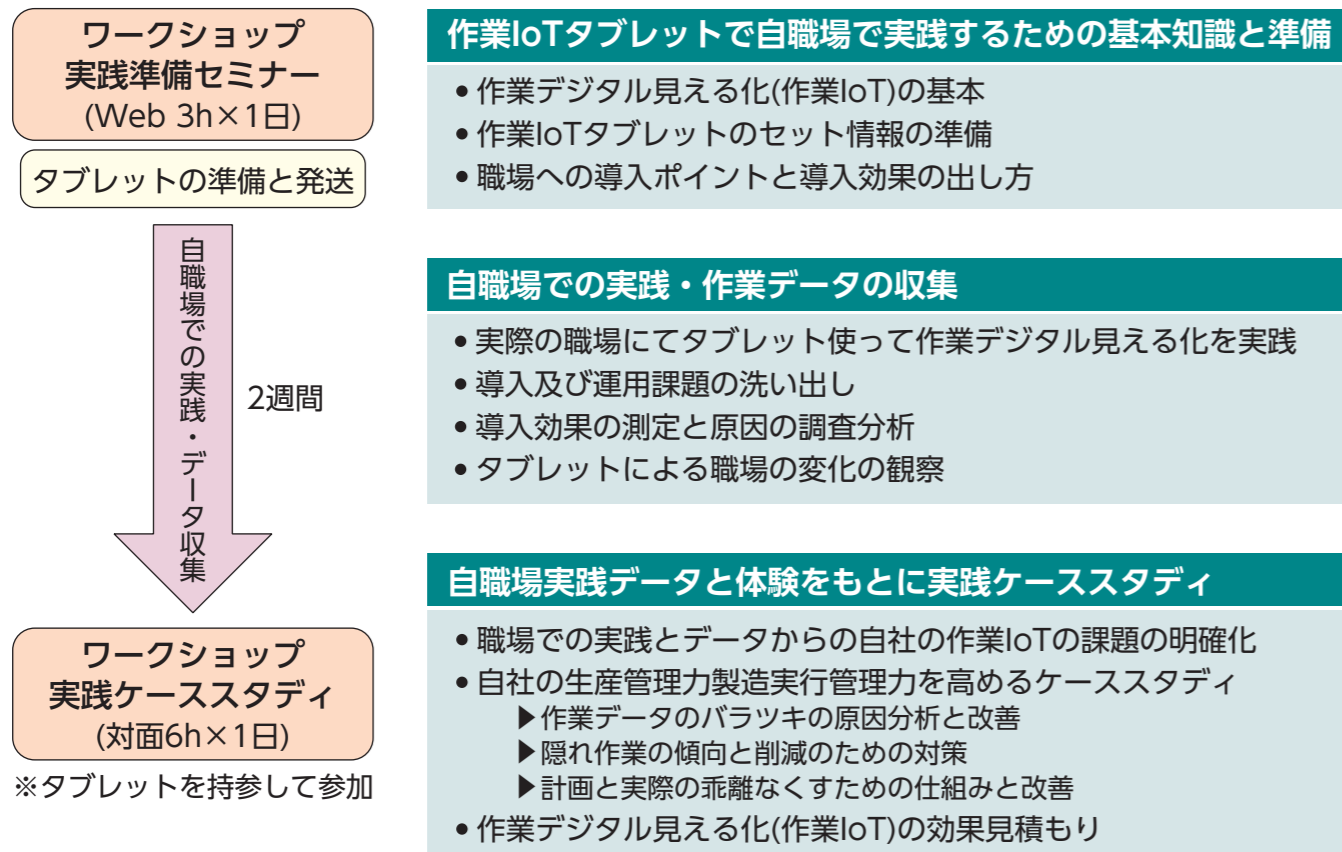
本ワークショップは、作業IoTタブレットを使って、計画や管理の基データの信頼性を下げるバラツキ・隠れ作業・計画と実際の乖離を改善するための「作業のデジタル見える化改善」を自職場で実践して習得します。

学べること・習得できること

※自職場で実践するための「作業IoTタブレット」は期間中に1社1台貸出します。本プログラムにおいて具体的な工程条件や特性などの入力はありません。

- ① 計画・管理の基データの信頼性を下げる原因と改善着眼点
- ② 管理の信頼性を落とすバラツキの見える化と削減
- ③ 効率低下の真犯人見えないムリ・ムラ・ムダの見える化
- ④ ITスキルがなくても正確に入力できるスイッチングタップ
- ⑤ 作業速度のオンタイム見える化による自律管理化

ワークショップの流れとカリキュラム



プログラム

ワークショップ実践準備

<3時間 13:00~16:00>

1 作業デジタル見える化(作業IoT)の基本

- うまくいかない工程管理の4大悩みと共通点
- 工程管理がうまくいかない5つの理由と課題
- 製造実行管理能力をアップする3つの管理策
- 作業者全員のデジタル見える化の必要性
- 作業デジタル見える化で職場はどのように変わるのか
- 作業デジタル見える化の事例と効果

2 作業IoTタブレットのセット情報の準備

- 作業IoTタブレットの構成と使い方
- 部品マスターと工程マスターの作成
- 標準時間の考え方と作成
- QRコードの発行方法と準備

3 IoTの職場への導入ポイントと導入効果の出し方

- 導入に対する抵抗と対応策
- 導入によってスキルアップ効果について
- 職場の変化の見方のポイント



ワークショップ実践ケーススタディ

<10:00~17:00 (昼休憩 12:00~13:00)>

1 実践データのレビューと課題の明確化

- 作業内訳と計画外作業のレビュー
- 作業データのバラツキレビュー
- 標準値との差異分析
- 付加価値生産性のレビュー
- 作業進捗と仕掛在庫のレビュー

2 自社の管理能力を高めるケーススタディ

- 自職場の作業データのバラツキの原因分析と改善
- バラツキ改善による作業者のスキルアップ方法
- 自職場の隠れ作業の傾向と削減のための対策
- 自職場の計画と実際の乖離なくす仕組みと改善
- 個々の違いを前提とした生産計画のオンデマンド改善
- 計画変更への対応性を高めるローリング管理

3 作業デジタル見える化(作業IoT)の効果見積もり

- 計画と管理の精度を高める効果
- 作業者のスキルアップと生産性改善
- 設備稼働率アップと生産性改善
- リードタイム短縮と在庫削減効果
- 原価精度の向上と原価管理上の効果

